

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と環境	単位数	3
年組	1年1組	教科書(発行所)	農業と環境(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 農業と環境を学ぶ	1 農業学習とは何か 2 農業と環境の学び方 3 学校農業クラブ活動	○	○	
5	第3章 栽培と飼育の基礎	1 作物の特性と栽培の仕組み (中間考査)	○	○	○
6	第4章 栽培・飼育と環境の プロジェクト	1 農業と環境のプロジェクトの 実際 6 トマトの栽培と利用	○	○	○
7		(期末考査)	○	○	○
7	第4章 栽培・飼育と環境の プロジェクト	2 イネの栽培と利用 (4)収穫 米粒の成熟過程 収穫の適期 刈り取り・乾燥・脱穀・調整 収量の算出 (5)イネの利用	○	○	○
8・9			○	○	○
9			○	○	○
10		7 ハクサイの栽培と利用 (3)栽培の実際 たねまきと育苗 施肥と耕うん 植え付けの実際	○	○	○
11		植えつけ後の作業 収穫と調整	○	○	○
12		(期末考査)	○	○	○
12	第4章 栽培・飼育と環境の プロジェクト	8 ダイコンの栽培と利用 ダイコンの利用 プロジェクト学習のまとめ 記録の内容やデータの図表化 結果の分析・考察 プロジェクトの検証	○	○	○
1			○	○	○
2			○	○	○
3		(学年末考査) 次に取り組む目標や課題	○	○	○
【備考】			知識・技術 環境保全や栽培方法の基礎・基本的な内容を理解しているか。 基本的な栽培技術が身に付いているか。 応用・発展的な内容であるか。 思考・判断・表現 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 主体的に学習に取り組む態度 地域の自然に関心を持ち、調査・研究を意欲的に行っているか。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			学習の目標 ○自ら作物を栽培し、作物の成長に関わる要因を気付かせる。 ○身のまわりの地域の環境を調べることにより、地域文化と生活の関わりについて知る。 ○農業が持つ多面的機能を、作物栽培を通し、楽しく学習させる。 授業の進め方 ○生徒一人一人が楽しく活動できるように、それぞれには場を設ける。 ○生産プロジェクトを実施し、記録や反省・評価を行うとともに生徒が自由に活動できる場となるよう配慮する。 学習の方法 ○果菜類を定植から収穫まで一人で行わせ、観察や記録を確実に行わせる。 評価の観点 評価の方法 ○教室での活動と実習の調和を図る。特に実習においては、積極性や協調性を評価する。 ○観察記録が確実に取れているかを評価する。 ○自分で考え、行動できたかを評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	3
年組	1年1組	教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	プロジェクト活動 及び栽培管理	果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 (中間考査) ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーションで実施)	○	○	
5				○	
6			○		○
7		(期末考査)	○	○	
7					
8・9		果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 (中間考査) ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーションで実施)	○	○	○
9			○	○	
10			○		○
11				○	
12		(期末考査)	○	○	
12		果樹 ○甘夏・河内晩柑の栽培 野菜 ○露地・施設野菜の栽培 草花 (中間考査) ○草花類の栽培 加工 ○農産物加工 (上記4部門をローテーションで実施)	○		○
1			○	○	
2			○		○
3				○	
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

果樹・野菜・草花・加工の4部門の実習を通して農業に対する興味・関心を高める。
地域農業を理解し、地域の一員として地域貢献する意欲と態度を養う。

授業の進め方

各班、果樹・野菜・草花・加工の4部門をローテーションで実施する。
4部門の実習を行うことにより、基礎的、基本的な知識・技術の定着を図る。

学習の方法

果樹・野菜・草花の基本的な栽培技術や加工の基本的な製造技術について、実践を通して身に付ける。
家庭では、実習記録の記入を行い、実習内容の知識の定着を図る。

評価の観点

<知識・技術>
栽培方法・加工方法の基礎・基本的な内容を理解しているか。
基本的な栽培技術・加工技術が身に付き、その技術を活用することができるか。
<思考・判断・表現>
実験・実習の記録が整理され、結果に対して科学的な考察がされているか。
<主体的に学習に取り組む態度>
実習に関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を示しているか。

評価の方法

実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と情報	単位数	2
年組	1年1組	教科書(発行所)	農業と情報(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 私たちの生活と 農業の情報化	1 情報化社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報化社会とモラル 〃	〇	〇	〇
5	第2章 社会を支えるコンピュータ	4 農業を支える情報 1 コンピュータのしくみ 〃	〇	〇	〇
6		2 データや情報の表現 3 情報通信ネットワーク 4 インターネットのしくみ (期末考査)	〇	〇	〇
7					
7	第3章 コミュニケーションと 情報デザイン	4 インターネットのしくみ 1 情報表現のためのソフトウェア 2 文書作成と表現 〃 〃	〇	〇	〇
8・9			〇	〇	〇
9		2 文書作成と表現 〃 〃 〃 (中間考査)	〇	〇	〇
10		2 文書作成と表現 〃 〃 〃	〇	〇	〇
11		2 文書作成と表現 (期末考査)	〇	〇	〇
12					
12	第3章 コミュニケーションと 情報デザイン	3 表計算ソフトウェアの応用 〃 〃	〇	〇	〇
1		3 表計算ソフトウェアの応用 〃 〃 〃 〃 (学年末考査)	〇	〇	〇
2			〇	〇	〇
3		3 表計算ソフトウェアの応用	〇	〇	〇
【備考】			〇知識・技術 農業に関する情報等をその目的や条件に合わせて活用できる知識と技術を体系的に理解できている。 〇思考・判断・表現 農業情報の活用について、環境への配慮や情報リテラシー等職業人に求められる倫理観を持って思考を深め、科学的な根拠に基づいて創造的に判断し、その過程や結果を適切に表現できる。 〇主体的に学習に取り組む態度 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			定期考査・課題・実技・提出物・資格取得・学習態度を総合的に判断して評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	2年1組		教科書(発行所)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	カンキツ (甘夏・河内晩柑) 栽培および プロジェクト活動	1 年間管理計画			○	学習の目標 果樹の生理作用や栽培の基礎知識を理解し、安定した柑橘栽培を行う技術を身に付ける。 グローバルGAPに取り組み、国際的な視野で柑橘栽培を行う態度を養う。 果樹栽培と自然環境の関係性や安全な農産物について考え、生産者としての責任感を養う。	
5		2 春肥	○				
		3 せん定		○			
		”			○		
6		4 生育調査			○		
		5 害虫防除		○			
		6 接ぎ木	○		○		
7	7 除草			○			
	”			○			
(期末考査)			○	○	授業の進め方 1年次に身に付けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、柑橘栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。 日頃の実習内容の記録を電子データにまとめたり、果樹園の改善点を発見し改善したりして、グローバルGAPの基礎的な知識・スキルの定着を図る。		
7		8 夏肥		○		学習の方法 果樹栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 実習記録の記入や清掃の徹底を行い、グローバルGAPに関する基礎的な知識・技術を身に付ける。	
8・9		9 荒摘果	○		○		
9		”			○		
		”					
10		10 病虫害防除			○		
11		11 防風垣刈り込み			○		
		12 仕上げ摘果	○				
		”			○		
12		13 夏秋梢剪定	○				
		”	○		○		
12		14 GAP審査会準備	○			<知識・技術> 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。柑橘栽培の応用的な技術及びグローバルGAPの技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 柑橘栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いて	
1		15 GAP審査会	○				
		16 収穫・袋詰め	○		○		
		”					
2		”	○				
		”			○		
3		16 収穫・袋詰め			○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4	
年組	2年1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1 野菜苗の管理	1 出荷準備 2 草姿の調整 3 育苗ハウス清掃	○	○		学習の目標 実習を中心に行い、観察や体験から野菜栽培に関する知識や技術を学ぶ。
5	2 メロンの栽培	1 は種 2 耕起 3 マルチング 4 定植 5 整枝 6 受粉 7 追肥	○		○	
6			○	○	○	授業の進め方
7			○	○	○	
専攻班での実習・プロジェクト活動を通して、知識・技術を習得する。						
7		8 着果		○		学習の方法
8・9	3 露地野菜の栽培 キャベツ・ハクサイ等	1 本畑準備 2 定植・かん水 3 かん水・防除	○	○	○	
9				○		栽培計画に沿って調査・研究を行う。そして、その成果をまとめ発表する。
10			○	○	○	
11		4 中耕・除草 5 収穫	○	○	○	評価の観点
12			○	○	○	
<知識・技術> 野菜の特性を理解しているか。基本的な栽培技術が身に付いているか。応用・発展的な内容であるか。栽培方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 栽培実習の内容を理解し、主体的・計画的に取り組む、意欲的に進めているか。						
12	4 育苗	1 育苗ハウス環境整備 2 電熱温床の設置		○	○	評価の方法
1		3 トンネルの設置 4 は種 5 鉢上げ 6 接ぎ木	○	○	○	
2			○	○	○	態度・技術・知識・服装・実習記録簿等を総合的に判断し評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
3		7 販売準備	○			
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	2年1組		教科書(発行所)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				
			知	思	態		
4	1 春まき一年草	1 マリーゴールド栽培・管理		○		学習の目標	
		〃		○			
		〃			○		
		〃		○	○		
5		〃			○		
	2 ダイアンサス栽培・管理	2 ダイアンサス栽培・管理		○		〇花栽培に関する基礎知識を理解し、季節ごとの草花栽培を行うための技術を身に付ける。 〇地域花壇の緑化活動に取組み、環境保護を行う態度を養う。 〇草花栽培と自然環境の関係性について考え、生産者としての責任感を養う。	
		3 バーベナ栽培・管理		○			
		4 メランポジウム栽培・管理			○		
		5 ケイトウ栽培・管理		○			
6		〃			○		
	〃	〃		○		授業の進め方	
7		〃			○		
(期末考査)							
7	2 秋まき一年草	1 秋まき一年草栽培			○	〇1年次に身に着けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、草花栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。 〇日頃の実習内容の記録をまとめたり、花壇緑化活動の改善を行う。	
8・9		〃		○			
9		2 秋まき一年草鉢上げ		○	○		
		〃			○		
		〃			○		
10		3 冬の草花管理	3 秋まき一年草鉢替え	○			学習の方法
			4 花壇管理		○		
			〃			○	
			〃		○		
11			〃			○	
			5 キンセンカ栽培・管理		○		
12							
評価の観点							
12		6 ビオラ栽培・管理	○			<知識・技術> 草花栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。草花栽培の応用的な技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 草花栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。	
1		〃		○			
		7 パンジー栽培・管理		○			
		〃		○	○		
		〃			○		
2		8 ガーベラ栽培・管理		○	○		
	〃			○			
3		〃	○			評価の方法	
実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。							
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4	
年組	2年1組		教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態			
4	食品製造	1 オリエンテーション	○		○	学習の目標 実習を中心に、衛生面や安全面、加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。
		2 年間計画		○		
		〃		○		
		3 農産物加工		○		
5		(1)ジャム製造	○			
		〃		○		
		〃		○		
		(2)マーマレード製造	○	○		授業の進め方
6		〃		○		
		〃		○		
7		(期末考査)		○		専攻班での実習・プロジェクト活動とおして知識・技術を習得する。
7		4 製菓製パン加工	○			学習の方法 加工実習の年間計画に沿って調査・研究・実習を行う。そしてその成果をまとめ発表する。
8・9		(1) スポンジケーキ製造		○		
		〃		○		
9		〃		○		
		(2) パウンドケーキ製造	○			
		〃	○			
		〃		○		
10		(3) マドレーヌ製造		○		
		〃		○		
11		〃		○		
		〃	○			
12						
12		5 プロジェクト学習	○			<知識・技術> 衛生・安全に適していることを理解しているか。基本的な加工技術が身についているか。応用、発展的な内容であるか。加工方法を理解しているか。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 <主体的に学習に取り組む態度> 加工実習の内容を理解し、主体的、計画的に取り組む、意欲的に進めているか。
		(1) 地域の特産品の活用		○		
1		〃	○			
		〃		○		
		〃		○		
2		〃		○		
		(2) まとめ			○	評価の方法 態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況を総合的に判断し評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

学習の目標

実習を中心に行い、衛生面や安全面、加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。

授業の進め方

専攻班での実習・プロジェクト活動をとおりて知識・技術を習得する。

学習の方法

加工実習の年間計画に沿って調査・研究・実習を行う。そしてその成果をまとめ発表する。

評価の観点

<知識・技術>
衛生・安全に適していることを理解しているか。基本的な加工技術が身についているか。応用、発展的な内容であるか。加工方法を理解しているか。

<思考・判断・表現>
実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。

<主体的に学習に取り組む態度>
加工実習の内容を理解し、主体的、計画的に取り組む、意欲的に進めているか。

評価の方法

態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況を総合的に判断し評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	農業と情報	単位数	2
年組	2年1組	教科書(発行所)	農業と情報(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点 知 思 態		
4	第3章 コミュニケーションと 情報デザイン	・表計算 (1)表計算ソフトの概要	○	○	学習の目標 情報処理の基礎的・基本的な知識と技術を活用し、農業の場面で大切な生育状況や気温などのデータの整理・分析が行えるようになる。処理したデータを発表できるように処理する能力を身に付ける。
5		〃	○	○	
6		〃	○	○	
7		〃	○	○	
8		〃	○	○	
9		〃	○	○	
10	第4章 スマート農業への展望	(2)表作成と表計算	○	○	授業の進め方 身近な農業に関する問題やデータを活用し、興味・関心を高める。また、反復練習により確実な情報処理技術の定着を図る。
11		〃	○	○	
12		〃	○	○	
1		・プログラミング (1)スマート農業のめざす将来	○	○	
2		〃	○	○	
3		〃	○	○	
4	第5章 スマート農業の発展	(2)システム開発と設計	○	○	学習の方法 技術を通してコンピュータを活用する。また、総合実習や生産科目で得たデータを活用する。
5		〃	○	○	
6		〃	○	○	
7		〃	○	○	
8		〃	○	○	
9		〃	○	○	
10	第6章 スマート農業の未来	(3)プログラムの設計	○	○	評価の観点 ○知識・技術 プレゼンテーションソフトの使い方やプログラミングの機能・構成を理解しているか。 ○思考・判断・表現 プレゼンテーション能力やプログラミングによるアルゴリズムについて思考を深め、整理、分析、発信することができる。 ○主体的に学習に取り組む態度 農業における通信ネットワークや生産から加工、中通までのシステム化について社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
11		〃	○	○	
12		〃	○	○	
1		〃	○	○	
2		〃	○	○	
3		〃	○	○	
4	第7章 スマート農業の課題	(2)プレゼンテーションソフトウェアの基本操作	○	○	評価の方法 定期考査・課題・実技・提出物・資格取得・学習態度を総合的に判断して評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
5		〃	○	○	
6		〃	○	○	
7		〃	○	○	
8		〃	○	○	
9		〃	○	○	
10	第8章 スマート農業の展望	学年末考査	○	○	【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
11		〃	○	○	
12		〃	○	○	
1		〃	○	○	
2		〃	○	○	
3		〃	○	○	

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	野菜	単位数	2
年組	2年1組	教科書(発行所)	野菜(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 野菜生産の役割と動向	1 野菜の種類と特徴 (1) 野菜の種類と利用 (2) 野菜の分類	○		○
5	第4章 果実を利用する野菜の栽培	5 メロン (中間考査) (1) 栽培上の特性 (2) 経営上の特性 (3) 作型と品種の選び方 (4) 栽培管理	○	○	○
6			○		○
7		(期末考査)	○	○	
7		(5) 商品価値を高める技術 (6) 栽培の評価		○	○
8・9	第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術	1 野菜の生育と生理 (1) 野菜の生育	○	○	
9		(2) 種子と発芽			○
10	第4章 果実を利用する野菜の栽培	1 トマト (1) 栽培上の特性	○		○
11		(2) 経営上の特性 (3) 作型と品種の選び方 (4) 栽培管理		○	○
12	第2章 野菜の生育特性と栽培管理の調節技術	(3) 茎と葉の成長 (期末考査)	○	○	
12		(4) 根の発達と肥大 (6) 葉菜類の花芽分化と抽だい	○		○
1	第3章 野菜の品種改良と繁殖	(7) 果菜類の花芽分化と果実の発育 (8) 休眠		○	○
2		2 育苗の目的と方法 (1) 育苗の意義と良苗の条件	○		○
3		(2) 育苗・苗生産の歴史と現状 (学年末考査) (3) 野菜苗の育苗方法	○	○	○
3		3 野菜の育苗技術と応用			○
【備考】			<知識・技術> 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、栽培方法について理解している。野菜栽培技術を適切に選択して活用している。 <思考・判断・表現> 野菜栽培に関する諸課題の解決を目指して思考を深めている。基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 <主体的に学習に取り組む態度> 野菜とその栽培に興味・関心を持ち、野菜の特性について探究しようとしている。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			評価の方法 ○教室での活動と実習の調和を図る。特に実習においては、積極性や協調性を評価する。 ○観察記録が確実に取れているかを評価する。 ○自分で考え、行動できたかを評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	果樹	単位数	2
年組	2年1組	教科書(発行所)	果樹(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第6章 カンキツ (甘夏・河内晩柑)	1 年間管理計画(GAP学習) 2 春肥 3 害虫防除(GAP学習) 4 せん定 " (中間考査)	○ ○ ○ ○	 ○	○
5		4 せん定 " (中間考査)	○ ○	○ ○	○
6		5 除草 " (期末考査)	○ ○	○ ○	○
7					
7		5 除草 6 夏肥			○ ○
8・9		7 荒摘果 8 病虫害防除(GAP学習) 9 秋肥	○ ○		○
9		9 秋肥 (中間考査)	○	○	○
10		10 防風垣刈り込み 11 仕上げ摘果 " (期末考査)	○ ○ ○		○
11		12 夏秋梢剪定 " (期末考査)	○ ○	○ ○	○
12					
12		12 夏秋梢剪定 " (期末考査)		○	○
1		13 収穫・袋詰め(GAP学習) " (学年末考査)	○ ○	○ ○	○
2		13 収穫・袋詰め(GAP学習)	○	○	○
3					
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	草花	単位数	2
年組	2年1組	教科書(発行所)	草花(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 草花を学ぶにあたって	オリエンテーション 草花とプロジェクト学習 "	○		○
5	第2章 草花生産と消費の動向	草花園芸の特徴 " 草花生産と消費の動向 " "	○	○	○
6				○	○
7		期末考査	○	○	
7	第3章 生活と草花の利用	草花の多面的利用 "	○		○
8・9		"	○	○	
9		"			
10		中間考査	○	○	
11		園芸デザイン " "	○		○
12		期末考査	○	○	
12	第4章 草花の特徴と栽培技術	草花の一生 根の成長と養水分の吸収	○		○
1		シュートの成長と光合成 "	○	○	○
2		花序や花芽の分化と発達 " "	○	○	○
3		学年末考査 生育開花調節と作型 "	○	○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	食品製造	単位数	2
年組	2年1組	教科書(発行所)	食品製造(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 食品製造の意義と動向	1 食品製造の意義 2 食品産業の現状と動向 〃 〃 (中間考査)	○	○	○
5	第2章 食品製造の基礎	2 食品産業の現状と動向 1 食品の分類 〃 〃 2 身近な食品の科学 (期末考査)	○	○	○
6			○	○	○
7			○	○	○
7	第3章 食品の変質と貯蔵	1 食品の変質とその原因	○	○	○
8・9	第4章 食品加工と食品衛生	2 食品の貯蔵法 1 食品と食品衛生 〃 2 食中毒 (中間考査) 3 食中毒と危害要因 〃 4 食品による危害と安全確保 〃 〃 〃 (期末考査)	○	○	○
9			○	○	○
10			○	○	○
11			○	○	○
12			○	○	○
12	第5章 食品の包装と表示	1 食品の包装 〃 2 加工食品の表示制度 〃 〃 〃 3 食品と規格制度 (学年末考査) 4 容器包装リサイクル法 〃	○	○	○
1			○	○	○
2			○	○	○
3			○	○	○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	課題研究	単位数	2
年組	3年1組	教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	計画	テーマの選定		○	
	実践	計画の立案			
		実践	○		○
		・調査研究			
5		・作品制作	○		
		・資格取得 (中間考査)		○	
				○	
6			○		○
7		(期末考査)		○	
7	実践	実践		○	
		・調査研究			○
8・9		・作品制作			
		・資格取得			
9				○	○
			○		
10				○	○
			○		
11			○		○
				○	
12		(期末考査)			
12	まとめ	まとめ		○	
				○	
1		・活動報告会	○		○
				○	
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

自ら研究課題を選定し、計画立案から実施まで意欲的に取り組む姿勢を身に付ける。
研究を通して、専門的な知識と技術を深め、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付ける。

授業の進め方

自ら農業に関する課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組み、課題の解決を図る。授業のまとめとして、1年間の研究成果をスライドを活用して発表を行う。

学習の方法

学校では、計画に基づいて準備を行い、研究を行う。準備は授業開始までに行っておく。
家庭では、研究内容に関する書籍、インターネットなどを活用して調査を行い、研究内容について科学的な考察を行う。

評価の観点

<知識・技術>
地域や農業の課題を理解し、適切な計画を立てているか。
<思考・判断・表現>
実験実習の記録が整理され、結果に対する考察が科学的で十分であるか。
<主体的に学習に取り組む態度>
地域や農業の課題に興味・関心を持ち、調査・研究を意欲的に行っているか。

評価の方法

授業中の活動状況(授業態度、研究への取組)や提出物(課題研究記録簿、課題研究報告書)、研究成果発表(資料作成、発表態度)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4		
年組	3年1組		教科書(発行所)				
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点			項目
				知	思	態	
4	カンキツ (甘夏・河内晩柑) 栽培および プロジェクト活動	1 年間管理計画				○	学習の目標 安定した柑橘栽培の実践を通して、実践的な果樹栽培の知識・技術を身に付ける。 グローバルGAPに取組み、国際的な視野で柑橘栽培を行う態度を養う。 果樹栽培と自然環境の関係性や安全な農産物について考え、生産者としての責任感を養う。
5		2 春肥			○		
6		3 せん定		○			
		〃			○		
		〃		○			
6		4 生育調査				○	
		5 害虫防除				○	授業の進め方
7		6 接ぎ木					
(期末考査) ○ ○							
7		7 除草				○	柑橘栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。また、地域農家や関係機関との連携を行い、知識・技術を深め、実践的な経営感覚を養う。 国際的な視野で柑橘栽培に取組み、グローバルGAPの実践的な知識・技術の定着を図る。
8・9		8 荒摘果		○			
9		〃			○		
		9 病虫害防除				○	
		10 防風垣刈り込み			○		
10		11 仕上げ摘果		○			
		〃				○	学習の方法 果樹栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。 記録の整理や、圃場整備を通して、グローバルGAPに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
		12 除草				○	
11		13 夏秋梢剪定		○			
		〃				○	
		〃		○			
12		14 GAP資料まとめ		○			
評価の観点							
12		15 GAP内部審査			○	<知識・技術> 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。柑橘栽培の応用的な技術及びグローバルGAPの技術を身に付けている。 <思考・判断・表現> 実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 柑橘栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いて	
1		16 GAP審査会		○			
		17 収穫・袋詰め		○			
		〃			○		
2							
3							
評価の方法 実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。							
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4
年組	3年1組	教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1 ミニトマトの栽培	1 は種 2 栽培槽準備		○	○
5		3 定植 4 整枝・誘引 5 プロジェクト活動	○	○	○
6			○	○	
7			○		○
7					
8・9	2 ブロッコリーの栽培	6 収穫・調整 1 耕うん 2 は種 3 施肥・定植準備 4 定植 5 防除・除草 6 収穫・調整	○	○	○
9					
10			○	○	
11			○	○	
12			○	○	○
12			○	○	
1	3 まとめ	レポートのまとめ		○	○
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

実習を中心に行い、観察や体験から野菜栽培に関する知識や技術を学ぶ。

授業の進め方

専攻班での実習・プロジェクト活動を通して、知識・技術を習得する。

学習の方法

栽培計画に沿って調査・研究を行う。そして、その成果をまとめ発表する。

評価の観点

<知識・技術>
野菜の特性を理解しているか。基本的な栽培技術が身に付いているか。応用・発展的な内容であるか。栽培方法を理解しているか。
<思考・判断・表現>
実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。
<主体的に学習に取り組む態度>
栽培実習の内容を理解し、主体的・計画的に取り組む、意欲的に進めているか。

評価の方法

態度・技術・知識・服装・実習記録簿等を総合的に判断し評価する。
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4
年組	3年1組	教科書(発行所)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1 春まき一年草	1 マリーゴールド栽培・管理	○		
5		〃		○	○
6		2 ダイアンサス栽培・管理		○	
		3 バーベナ栽培・管理	○		
		4 メランポジウム栽培・管理			○
		5 ケイトウ栽培・管理	○		
7		〃		○	
		〃			○
		(期末考査)	○	○	
7	2 秋まき一年草	1 秋まき一年草栽培			○
8・9		2 秋まき一年草鉢上げ	○		
9		〃		○	
		〃			○
10		3 秋まき一年草鉢替え	○		
		〃		○	
		〃		○	
11	3 冬の草花管理	4 花壇管理			○
		〃	○		
		〃			○
		5 キンセンカ栽培・管理	○		
12		〃		○	
12		6 ビオラ栽培・管理			○
		〃			○
1		7 パンジー栽培・管理		○	
		〃	○		
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

○花栽培に関する基礎知識を理解し、季節ごとの草花栽培を行うための技術を身に付ける。
○地域花壇の緑化活動に取組み、環境保護を行う態度を養う。
○草花栽培と自然環境の関係性について考え、生産者としての責任感を養う。

授業の進め方

○2年次に身に着けた基礎・基本的な知識・技術を活用して、草花栽培を行い、応用的な知識・技術の定着を図る。
○日頃の実習内容の記録をまとめたり、花壇緑化活動の改善を行う。

学習の方法

○草花栽培の応用的な知識・技術について、実践を通して身に付ける。
○実習記録の記入や農具の管理を行い、安全な作業活動の知識・技術を身に付ける。

評価の観点

<知識・技術>
草花栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。草花栽培の応用的な技術を身に付けている。
<思考・判断・表現>
実験・実習の記録が整理され、思考を深め科学的に考察し表現できる。
<主体的に学習に取り組む態度>
草花栽培に関心を持ち、意欲的に技術を習得しようとする態度が身に付いている。

評価の方法

実習内容の定着状況(知識・技術)や授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)、実習記録簿の記入状況、農業クラブ活動により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4			
年組	3年1組		教科書(発行所)					
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点					
			知	思	態			
4	食品製造	1 オリエンテーション		○		学習の目標		
5		2 年間計画			○		実習を中心に行い、衛生面や安全面、加工実習から食品加工に関する知識や技術を学ぶ。	
6		3 農産物加工 (1)うどん製造 (2)ジャム製造 〃 〃 〃	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	授業の進め方			
7		(期末考査)	○	○				専攻班での実習・プロジェクト活動をおして知識・技術を習得する。
7		4 製菓製パン加工		○				学習の方法
8・9		(1) スポンジケーキ製造 〃 〃	○ ○ ○	○ ○ ○		加工実習の年間計画に沿って調査・研究・実習を行う。そしてその成果をまとめ発表する。		
9		(2) パン製造 〃 〃 〃	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	評価の観点			
10		(3) シフォンケーキ製造 〃	○ ○	○ ○			＜知識・技術＞ 衛生・安全に適していることを理解しているか。基本的な加工技術が身についているか。応用、発展的な内容であるか。加工方法を理解しているか。 ＜思考・判断・表現＞ 実験・実習の記録が整理され、結果に対する考察が十分であるか。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞ 加工実習の内容を理解し、主体的、計画的に取り組む、意欲的に進めているか。	
11		5 水産物加工 (1) じゃこ天製造	○ ○					○
12								態度・技術・知識・服装・実習記録簿の提出状況を総合的に判断し評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
12		6 プロジェクト学習 (1) 地域の特産品の活用 〃 (2) まとめ	○ ○ ○	○ ○ ○				
1								
2								
3								
【備考】								
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	野菜	単位数	2
年組	3年1組	教科書(発行所)	野菜(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第4章 果実を利用する野菜の栽培	5 トマト	○		
5		6 ナス		○	
6	第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調整技術	7 ピーマン 2 野菜の栽培環境と生育調節 (1)光環境とその調節 (2)温度環境とその調節 (3)湿度環境とその調節 (4)風・ガス環境とその調節	○	○	○
7		(期末考査)	○	○	
7		(5)地下部の環境とその調節	○		
8・9		(6)合理的作付けと輪作			○
9		3 人工環境における栽培技術 (1)露地栽培		○	○
10	第5章 葉や茎を利用する野菜の栽培	(2)施設を利用した栽培 (3)養液栽培 (4)植物工場 1 キャベツ 2 ハクサイ 4 ブロッコリー	○	○	○
11	第7章 野菜の流通と経営改善	8 タマネギ 1 野菜の流通と鮮度保持 2 加工・業務用野菜	○	○	○
12		(期末考査)	○	○	
12	第6章 根を利用する野菜の栽培	3 野菜生産の経営改善 1 ダイコン 2 ニンジン		○	○
1			○		○
2			○	○	
3					
【備考】			<知識・技術> 野菜に関する基礎的な知識を身に付け、栽培方法について理解している。野菜栽培技術を適切に選択して活用している。 <思考・判断・表現> 野菜栽培に関する諸課題の解決を目指して思考を深めている。基礎的な知識と技術をもとに合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 <主体的に学習に取り組む態度> 野菜とその栽培に興味・関心を持ち、野菜の特性について探求しようとしている。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			評価の方法 ○教室での活動と実習の調和を図る。特に実習においては、積極性や協調性を評価する。 ○観察記録が確実に取れているかを評価する。 ○自分で考え、行動できたかを評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	果樹	単位数	4				
年組	3年1組		教科書(発行所)	果樹(実教出版)					
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点			項目		
				知	思	態			
4	第6章 カンキツ (甘夏・河内晩柑) ※実習科目により、 評価の観点は、 総合的に判断する および プロジェクト活動	1 年間管理計画		○			学習の目標	果樹の生理作用や栽培に関する基礎知識を身に付けるとともに、実習を通して、技術を定着させる。 栽培を通して、地域の特産品である柑橘への理解を深め、他の果樹栽培への興味・関心を高める。	
		2 春肥			○				
		3 害虫防除		○					
		4 生育調査	(中間考査)	○	○				
		5 接ぎ木		○		○			
		6 除草				○			
5		6 除草 (期末考査)		○		○	授業の進め方		
7		6 除草		○		○	年間を通して実習を行い、1年間の果樹栽培を実践することにより、知識と技術の定着を図る。 教科書や参考資料を活用し、内容の定着を図る。		
7		7 夏肥			○		学習の方法	実習では、担当区域を設置し、果樹の栽培管理を学ぶ。積極的に取り組むこと。 座学では、実習内容の説明、振り返りを行う。集中して取り組み、疑問点は必ず指導を受けること。 家庭では、実習記録の記入、教科書、ノートを活用し復習を行い、知識の定着を図る。	
		8 荒摘果		○		○			
8・9		9 病虫害防除				○			
		10 防風垣刈り込み				○			
		11 生育調査	(中間考査)	○	○				
		12 仕上げ摘果		○		○			
9			12 仕上げ摘果			○	評価の観点	＜知識・技術＞ 果樹栽培について、基本的な概念や生理現象を理解し、知識を身に付けている。実習を行い、柑橘栽培の技術を習得するとともに、その技術を活用することができる。 ＜思考・判断・表現＞ 果樹栽培の問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 ＜主体的に学習に取り組む態度＞ 様々な果樹栽培に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いて	
		13 除草				○			
		14 夏秋梢剪定		○		○			
		15 生育調査まとめ (期末考査)		○	○				
10									
11							評価の方法	授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)や提出物(ノート、ワークシート、実習記録)、定期考査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	
12									
12		16 夏秋梢剪定		○					
		17 収穫・袋詰め			○				
1		17 収穫・袋詰め (学年末考査)		○	○				
2									
3									
【備考】									
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。									

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	選択草花	単位数	2	
年組	3年1組	教科書(発行所)	草花(実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第4章 草花の特徴と栽培技術	品種改良と繁殖	○			学習の目標 ○草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ○草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
5		中間検査	○	○		
6		草花の生育と栽培技術	○	○		
		〃	○			
		〃	○			
		〃	○			
7		期末検査	○	○		授業の進め方 ○年間を通して実習を行い、1年間の草花栽培を実践することにより、知識と技術の定着を図る。 ○教科書や参考資料を活用し、内容の定着を図る。
7		生産施設と栽培環境の調節	○			学習の方法 ○実習では、は種、鉢上げ、販売など、草花の栽培方法や活用方法を学ぶ。 ○座学では、実習内容の説明、振返り、教科書を活用した学習を行う。 ○家庭では、実習記録の記入、教科書、プリントを活用し復習を行い、知識の定着を図る。
8・9		〃			○	
9		〃	○			
		〃			○	
10	第5章 切り花生産	中間検査	○	○		
		切り花生産の特色	○			
		〃			○	
		〃			○	
11		切り花の品質保持	○			評価の観点 <知識・技術> 草花の生産や経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けている。 <思考・判断・表現> 草花の生産や経営に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 安全で安心できる草花の生産と経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
		〃	○	○		
		〃	○	○		
12		期末検査	○	○		評価の方法 ○授業中の活動状況(授業態度、実習への取組)や提出物(プリント、実習記録)、定期検査(小テスト、確認テスト含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
12	第6章 鉢もの生産	鉢ものの生産の特色	○			
		鉢ものの生産資材と商品化技術			○	
1		〃			○	
		〃	○			
2		学年末検査	○	○		
3						
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	食品製造	単位数	3
年組	3年1組	教科書(発行所)	食品製造(実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第6章 農産物の加工	1 穀類の加工 〃 〃 〃 (中間考査)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
5		2 豆類・種実類の加工 3 いも類の加工 〃 4 野菜類の加工 〃 (期末考査)	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
6					
7					
7		5 果実類の加工 〃 〃 〃	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
8・9	第7章 畜産物の加工	1 肉類の加工 〃 〃 2 牛乳類の加工 〃 (中間考査)	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
9		3 鶏卵の加工 〃 1 発酵食品の特徴と種類 2 みそ・しょうゆの製造 〃 〃 (期末考査)	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
10					
11					
12					
12	第9章 食品製造の実践と企業化	1 品質管理 〃 〃 2 食品製造の実践 〃 (学年末考査)	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
1					
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	農業	科目	地域資源活用	単位数	2
年組	3年1組		教科書(発行所)	地域資源活用(実教出版)	
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点	
				知	思 態
4	第1章 地域資源活用とは	地域資源とその活用			○
	第2章 農山村社会の変化と地域振興	地域資源活用とプロジェクト学習	○		
		農山村と都市の現状と変化			○
		地域活性化に向けた施策・取組	○		○
		〃			○
5	第3章	(中間考査)	○	○	
	地域資源活用の意義と役割	地域資源の魅力と価値			○
		地域振興に向けた施策と取組			○
		異業種連帯と商品価値の創造			○
		〃			○
6		情報の発信と活用	○		
		(期末考査)	○	○	
7					
〇町内でフィールドワークを実施する。 〇教科書や参考資料、プリントを活用し、内容の定着を図る。					
7	第4章	地域資源の見つけ方と活用			○
	地域資源の価値と活用				
8・9		観光への活用			○
		商品開発への活用	○		
9		サービス業への活用			○
		教育・福祉への活用	○		○
		〃			○
		(中間考査)	○	○	
10	第5章	地域資源のマーケティングとブランドづくり			○
	地域と連携した活動	地域資源を活用したサービス	○		
		〃			○
		農業のユニバーサルデザイン化	○		
11					
		地域振興活動と評価			○
		(期末考査)	○	○	
12					
〇知識・技術＞農林業・農山村の特色や地域資源の有 用性についての学習を通して、農林業・農山村の実態 や地域社会の在り方、そこで新たな仕事を産み出す起 業活動などに関連する知識と技術を体系的・系統的に 理解している。 〇思考・判断・表現＞農林業・農山村の特色を活かした 生活体験を提供する活動などを体験し、それらを推進し ている社会的起業家の事例を通して、地域資源を活用 した地域の振興について、科学的な根拠などに基づい て創造的に解決する力を養うことができる。 〇主体的に学習に取り組む態度＞地域振興の担い手と して、地域と連携し、地域資源を活用したグリーンツーリ ズムや商品開発、市民農園運営などの実践を行うなど により、新たな価値の創造などに主体的かつ協働的に 取り組む態度を養うことができる。					
12	第6章	地域資源活用の企画と実践			○
	地域資源活用の実践	〃	○		
1		高校生による実践例			○
		〃			○
		(学年末考査)	○	○	
2					
3					
〇授業中の活動状況(授業態度、 フィールドワークへの取組)や提出物、 定期考査(小テスト、確認テスト含む)に より評価する。また、観点別評価(A・B・ C)と100点法による評価を行い、学年末 において5段階評定に総括する。					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					